

平成 27 年度第 2 回

横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会

日時：平成 28 年 3 月 9 日（水）午後 2 時 30 分～4 時 30 分

場所：横浜市健康福祉総合センター 8 階 A・B 会議室

■ 次 第 ■

1 開 会 14:30～

(1) 地域福祉保健部長あいさつ

2 議 事 14:35～

【議事 1】第 3 期区地域福祉保健計画策定状況及び今後の区計画支援について

＜資料 1-1、1-2＞

【議事 2】第 3 期横浜市地域福祉保健計画推進の取組について

＜資料 2、3-1、3-2＞

3 報 告 16:20～

平成 28 年度 第 3 期横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組予定スケジュールについて

＜資料 4＞

4 閉 会 16:25

(1) 市社協事務局長あいさつ

(2) 地域福祉保健部長あいさつ

＜委員会配付資料一覧＞ ※当日配布資料

○平成 27 年度第 2 回横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 次第 ※

○横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会 委員名簿・事務局名簿 ※

○第 3 期区地域福祉保健計画 概況

＜資料 1-1＞

○第 3 期区地域福祉保健計画 策定状況

＜資料 1-2＞

○第 3 期横浜市地域福祉保健計画の推進に向けて

＜資料 2＞

○委員会取組計画報告（26～27 年度）

＜資料 3-1＞

○委員コメント ※

＜資料 3-2＞

○平成 28 年度 第 3 期横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組予定スケジュール

＜資料 4＞

横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会委員名簿

【任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日】

H27.7.1（敬称略）

	委員名	所 属	分 野
1	石塚 淳 イヅカ ジュン	横浜市桂台地域ケアプラザ（栄区） 所長	地域ケアプラザ
2	井上 彰 イノウエ アキラ	横浜市身体障害者団体連合会 理事	障害分野関係者
3	植木 美子 ウエキ ミコ	市民公募委員	市民委員
4	内海 宏 ウチノミ ヒロシ	地域計画研究所 所長	地域まちづくり関係者
5	工藤 廣雄 クドウ ヒロオ	社会福祉法人神奈川県匡済会 横浜市生活自立支援施設はまかぜ 施設長	社会福祉協議会 （市社会福祉協議会理事）
6	小宮山 滋 コミヤマ シゲル	横浜市民生委員児童委員協議会 理事	民生委員児童委員協議会
7	佐伯 美華 サエキ ミカ	幸ヶ谷小学校 学校・地域コーディネーター	学校・地域連携関係者
8	坂田 信子 サカタ ノブコ	横浜市心身障害児者を守る会連盟 事務局長	障害分野関係者
9	菅原 恵美子 スガハラ エミコ	市民公募委員	市民委員
10	竹谷 康生 タケヤ ヤスオ	栄区シニアクラブ連合会 会長	高齢分野関係者
11	田高 悦子 タカガ エツコ	横浜国立大学大学院医学研究科・医学部 教授	学識経験者（保健）
12	中野 しずよ ナカノ シズヨ	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま 理事長	NPO・市民活動団体等 中間支援組織
13	名和田 是彦 ナワタ シノブ	法政大学法学部 教授	学識経験者 （コミュニティ）
14	西尾 敦史 ニシオ アツシ	静岡福祉大学社会福祉学部 教授	学識経験者（福祉）
15	平本 成子 ヒラモト ナリコ	横浜市保健活動推進員会 旭区鶴ヶ峰地区会長	保健活動推進員
16	増田 英明 マサダ ヒデアキ	一般社団法人横浜市医師会 常任理事	医師会
17	森本 佳樹 モリモト ケイキ	立教大学コミュニティ福祉学部 教授	学識経験者（福祉）
18	山崎 滋 ヤマサキ シゲル	保土ヶ谷区連合町内会自治会 会長／ 保土ヶ谷区社会福祉協議会 会長	自治会町内会関係／ 区社会福祉協議会
19	山田 美智子 ヤマダ ミチコ	西区地域子育て支援拠点スマイル・ポート 施設長	子育て分野関係者
20	米岡 美智枝 ヨネオカ ミチエ	西区第四地区社会福祉協議会 会長	社会福祉協議会 （地区社会福祉協議会）

第3期区地域福祉保健計画 概況

(平成28年3月9日現在)

1. 各区計画の特徴【資料1-2参照】

(1) 第3期計画の特徴(アピールしたい点)

各区とも第2期計画の推進プロセスや振り返り結果等の特徴を踏まえて策定していることから、その特徴は多岐に渡っている。

(2) 推進の柱

「つながりづくり」「支え合いの仕組みづくり」「担い手」「活動への参加」「安心・安全なまちづくり」「健康づくり」などのテーマを取り上げている区が多い。

＜区の特徴をふまえた推進の柱＞

- ・「知る」: 自分のまわりの人やまちのことを知ろう 伝えよう
- ・「得意」や「経験」をいかしてわたしもあなたも地域も元気に
- ・身近な場所で相談・支援が受けられる環境整備
- ・活動の土台となる情報・機会・ネットワークの充実
- ・人と人、活動と活動のつながりがあるまち
- ・隣近所で見守り・支え合う地域づくり 等

(3) 健康づくりに関する取組

第3期市計画では、「保健」「健康づくり」の視点をさらに強化する方向性を示した。そのため、第3期区計画においても、「健康づくり」の視点が強化され、幅広い健康づくりの取組が盛り込まれている。

(4) 市計画・区計画において、さらに取組を推進していきたい項目

第3期市計画における推進の柱3「企業やNPO等との連携した取組の推進」では、今後の地域活動のさらなる推進に向け、多様な主体と連携していくことが必要と考え、市域・区域で取組を進めていくこととした。推進の柱3における区計画での特徴・具体的な取組をまとめた。

テ マ の 取 組 団 体 等	<p>ニーズ・課題把握のために、計画策定のプロセスの中で、ボランティア団体、NPO等の分野別・団体別(高齢者、障害者、子育て支援、健康づくり等)グループにインタビュー等を行い、計画に反映した区が複数ある</p> <p>・計画の推進体制の一つとして、テーマに沿った活動・課題の共有を目的とした意見交換の場「しゃべっチャオ(仮称)」を実施予定(港南区)</p>
企 業 と 連 携 し た 取 組	<p>企業と連携した具体的な取組を、コラムで紹介している区が複数ある</p> <p>・金融機関と連携し、年金口座を持っている方を対象にした認知症サポーター養成講座を実施(中区)</p> <p>・清掃活動を行っていたボランティアグループや企業、学校等が集まり、「きれいな安らぎのある柏尾川づくり」を目指して「柏尾川魅力づくりフォーラム」を立ち上げ(戸塚区)</p>
地 域 福 祉 施 設 と 連 携 し た 取 組	<p>地域福祉施設と連携した具体的な取組をコラムとして紹介している区が複数ある</p> <p>・かなざわ健康インフォメーション事業: 地域活動拠点と連携した健康づくりに関する情報発信、出張講座の開催(金沢区)</p> <p>・分野を越えて横につながる、区内約30の社会福祉法人との「社会福祉法人と地域つながる連絡会」を立ち上げ、地域と社会福祉法人が連携し共に考える場づくり(戸塚区)</p>

2. 地区別計画策定・推進方法の特徴

- ・住民が、自分たちの計画として自ら計画策定に取り組んだ地区が増えた。
- ・計画策定の中心になった地区懇談会、地区社協など地域のプラットフォームを中心に推進していく。
- ・テーマごとに部会をつくり取組を進める地区など、地区ごとの特徴がさらに幅広くなっている。地区の状況に合わせて支援を進めていくことが必要。
- ・地域ケアプラザを区・区社協と並んで共同事務局に位置付け、推進の体制をつくった区もある。

<具体的な取組例>

- ・毎年、年間の各地区の活動をまとめた冊子を作成し、年度末の区のフォーラムで配布
- ・各地区共通として、計画中間年に「中間振り返り」、最終年に「最終振り返り」を実施
- ・テーマ型団体等も含め、地区横断的に情報交換の場をつくる
- ・中間年度に活動事例集を作成予定 等

3. 評価方法

<区計画>

- ・計画中間年の「中間振り返り」、最終年の「最終振り返り」等を実施しながら計画の進捗状況を確認する。
- ・年度ごとに「年間計画」を立て、策定推進会議で進捗を確認する。
- ・区政運営方針の中に位置づけ、進捗管理を行うこととした。
- ・市計画の「評価の視点」をもとに、区計画における評価の視点を定めた区もある。
(①課題解決の視点、②住民参画の視点、③協働の視点 等)

<地区別計画>

- ・各地区の活動をまとめた冊子及び報告書を年度ごとに作成する。
(冊子作成作業を通して取組の振り返りを毎年行う機会としていく)
- ・地区別推進組織等で年2回ほど取組の振り返りを行う。
- ・地域の実情に合わせた方法で実施。
- ・段階的な指標を作成し、地区ごとに自己評価を行う仕組みを作った区もある。
(①タネをまいたね ②目が出たね ③花が咲いたね 等)

第3期区地域福祉保健計画 策定状況

資料1-2

(平成28年3月9日現在)

区	第3期計画の特徴(アピールしたい点)	推進の柱	健康づくりに関する具体的な取組内容
鶴見	<ul style="list-style-type: none"> 第3期市計画で保健の視点がさらに明確化されたこと、区内の健康関連数値の現状が良くないことを踏まえ、推進の柱として、新たに「健やかに暮らせる地域づくり」を設定。 区の現状(社会増加数が多い、外国人住民が多い等)に対応する行動目標を設定。 地区別計画においては、2年間をかけて、各地区それぞれの手法で住民のニーズ把握や計画づくりの話し合いが行われ、地域の主体性のある計画が策定された。また、区全体計画の骨子を早期に提示したことで、区全体計画とのつながりが強化(例:健康に関する目標が多く設定)。 	<ol style="list-style-type: none"> つながりのある地域づくり 必要な人に支援が届く仕組みづくり 健やかに暮らせる地域づくり 	ウォーキングなど住民の健康づくりにつながる活動、各種団体の活動や行事そのものが健康につながる取組
神奈川	<ul style="list-style-type: none"> 区計画では地区別計画の取組を支援する取組や各地区での共通の課題、また区域でしか取り組めないこと(対象者が少ない課題や専門的支援の必要な課題等)への取組を記載。 地区別計画は、策定エリアを地域ケアプラザ単位から連合単位(21地区)に変更。 計画素案の意見募集と併せて、計画の愛称募集を行い、「かながわ支え愛プラン」に決定。 計画策定後の推進体制を整備し、「かながわ支え愛プラン」策定推進会議を行うこととした。 	<ol style="list-style-type: none"> 支援が必要な人が支援につながる仕組みづくり 健やかで心豊かに生活できる地域づくり 地域を支える人材を支援する仕組みづくり 身近な支えあいの仕組みづくりとそれを推進する体制づくり 	子どもから高齢者まで、世代毎に健康づくりの取組を記載
西	<ul style="list-style-type: none"> 福祉保健の分野にとどまらず、生活課題全般、地域の様々な分野を対象にした計画とした。 地区連合町内会エリアで地域の方たちが議論を重ね、地区別計画を策定し、さらに計画リーフレットの編集まで深く関わった。 	<p>方向性1 地域のつながり・新たな地域福祉の担い手を広げます。</p> <p>方向性2 具体的な地域の課題解決の仕組みを強化します。</p> <p>方向性3 支援が必要な人を地域で支える仕組みづくりを推進します。</p> <p>目標1 安全が確保され、安心なまち</p> <p>目標2 活気にあふれ、健康なまち</p> <p>目標3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち</p> <p>目標4 地域全体がつながりを持つまち</p> <p>目標5 子どもが健やかに成長できるまち</p> <p>目標6 必要な情報が正確に伝わるまち</p>	<p>【目標2 活気にあふれ、健康なまち】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で健康づくりに携わる団体・グループの担い手を増やし、支援していく 気軽に参加できる健康づくり事業や健康に関する情報を提供していく 身近な地域で介護予防に取り組む人材や場所を増やす シニア世代が生きがいや地域での役割を持つことができるよう、社会参加に結びつくきっかけや場を提供していく
中	<ul style="list-style-type: none"> 区役所各課や区社協、地域ケアプラザの事業や施策を広く取り込み、狭い意味での福祉保健に限らず様々な生活課題を解決する活動について、区全体で取り組む計画とした。 推進会議の中に部会を設置し、初めて地域福祉に関わる人にも分かりやすいリーフレットの作成を行った。 	<ol style="list-style-type: none"> 中なかいいネ！で“えん”結び ～中区は地域の「見守り力」を高めます 中なかいいネ！で元気いっぱい！ ～中区はまちぐるみで「健康づくり」をめざします 	<ul style="list-style-type: none"> 健康横浜21に準拠し、医師会・歯科医師会・薬剤師会等の団体と連携して取り組むことを明記した。 からだ・こころの健康のみならず、まちの健康という概念で防犯や防災・交通安全や美化活動なども含め、広く取組を進めることとした。
南	<ul style="list-style-type: none"> 区全体計画では、区役所各課、区社協、地域ケアプラザ、関係団体ネットワークそれぞれが推進主体による5年後の将来像と具体的な取組を明記。 地区別計画では、地区社協が中心となりふれあい懇談会を開催し、地域住民の意見を踏まえた計画を策定。 第3期南区地域福祉保健計画推進連携会議を新たに立ち上げ、組織・団体間の連携を進めた。 	<ol style="list-style-type: none"> 日ごろから声を掛け合い、つながり・支えあいの関係をつくろう 誰もが活躍できる機会と身近な参加の場をつくろう 日常の情報共有を進め、災害時にも安心できる備えをしよう 身近な活動を通して健康づくりを進めよう 	推進の柱である重点目標4に基づき、区、区社協、地域ケアプラザ、関係団体ネットワーク及び地区が、それぞれ健康づくりの取組について記載。
港南	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方に計画を知っていただくため、また計画冊子を手に取っていただくために、冊子に記載する文章を少なくしたり、内容をイメージできるよう写真を掲載したり工夫した。 計画名称の愛称を募集し、「港南ひまわりプラン」とした。 区民一人ひとりが、子育てや介護などの経験を活かしたり、障害があってもできることがあることを知らせ、主体的に取り組めるよう、従来からある「担い手・人材の発掘」のような見他人事に受け取られかねないテーマ設定ではなく、「できることをやる」をテーマの一つに据えた。 多くの区民の意見を反映できるよう、また計画に載せることができるよう、ヒアリングとともに、地域に対する夢・希望をイベントの際にカードに書いていただいたり、お子さんに「こんなまちになったらいいな」をテーマに絵を描いていただいた。 	<ol style="list-style-type: none"> 知る ～自分のまわりの人やまちのことを知ろう 伝えよう つながる ～まちのいろいろな人や団体とつながろう 仲間になろう できることをやる ～楽しく、無理せず、できることをやろう 支えあう ～みんな、お互いさま！ 健康づくり ～日頃から、健康に気をつけよう、みんなで取り組もう 高齢者 ～いくつになっても、いきいきと、安心できる暮らしを考えよう 障がい児・者 ～障がいがあってもなくても、共に住みよいまちにしていこう 子ども・青少年 ～子ども・青少年がのびのび育つ喜びをみんなで分かち合おう 	<p>【テーマ5 健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区役所の取組として、 各世代の健康ニーズの把握、自ら健康づくりに取り組めるよう情報を分かりやすく発信 保健活動推進員などと連携し、地域で健康寿命を延ばす取組を推進 生活習慣病や感染症などの予防活動を地域と協働で取り組む <p>※この他に、区民、活動団体等、ケアプラザ、区社協の取組内容あり</p>
保土ヶ谷	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域でそれぞれが取り組む際の参考となるよう、取組事例やイラストを豊富に盛り込んだ。 地域の全ての人を対象とした計画という視点から、対象者別ではなく取組を進めるテーマごとに整理。 区全域計画策定においては、26団体・機関が参加するほつとなまちづくり推進会議と、その下に3部会を設けて議論しながら策定。 ワークショップ「トークほどがや」や区内在住の18歳以上4,000人を対象とした区民アンケートを実施し、区民の意見を反映。 地区別計画策定において、幅広く地域住民の意見を反映するため、地区懇談会等の開催やアンケート実施など、各地区の状況に合わせて工夫して策定。 区全域計画の概要及び該当地区の地区別計画を掲載したリーフレットを、広報区版と併せて各戸に配布(自治会町内会やマンション管理組合が無償協力)。 	<p>大切にする視点</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域のみんなを対象に 地域のみんなを進めよう <p>基本理念の実現に向けた3つのテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 見守り・支えあい いきいき健康 担い手づくり・情報 	<p>「いきいき健康」をテーマとした取組の方向性を「自助」「共助」「公助」に整理して記載。</p> <p>また、区全域を対象に行われている主な取組や制度も紹介。</p> <p>例)地域の中での取組(共助)</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めての方、地域との接点がない方でも参加しやすくなるよう工夫します。 活動の一部に健康に役立つ内容を取り入れます。 仲間同士で楽しみながら、健康づくりの活動を継続します。 より多くの人が、地域で活躍できる機会をつくります。 より効果的な活動をするため、健康づくりに関わる団体同士が情報を共有します。
旭	<ul style="list-style-type: none"> 区全域計画では、区役所、区社協、地域ケアプラザ等が主体となって推進する具体的な取組について、3本の推進の柱のもとに28項目に整理して記載。 地区別計画では、地区ごとの地区別計画策定推進組織が中心となり、区役所・区社協・地域ケアプラザ職員で構成する地区別支援チームが協力し、地域住民の意見を踏まえた計画を策定。 区全域計画の概要及び該当地区の地区別計画を掲載したリーフレットを作成し、自治会町内会の班単位での回覧による周知予定。 	<ol style="list-style-type: none"> 地域の福祉力アップ 安心して自分らしい生活ができる地域づくり 地域の取組で元気力アップ 	「区民一人ひとりが取り組む健康づくり」「食育の推進」等
磯子	<ul style="list-style-type: none"> 策定に当たって、福祉保健センターだけではなく総務部も交え、区役所、区社協、地域ケアプラザとともに検討した。 地域が主体となって地区別計画を推進してもらうためには、策定の段階から地域の皆さんと一緒に取り組んでいくことが必要と考え、多くの地域の方々とともに検討した。 具体的には、平成26年度は、「第3期計画の方向性」を定めるために20団体にグループインタビューと9つ連合に地区別ヒアリングを実施し、幅広く意見を伺い、方向性に反映できた。平成27年度は、その方向性を基に、地区ごとにワークショップと地区別計画策定会議を開き、地区の実情に合わせた地区別計画が策定できた。 計画の全体構成がわかるように、基本理念のもと3つの基本目標を設け、冊子では体系図で示した。 第2期に引き続き、地区別計画に2つの共通テーマを設けた。 計画冊子は、多くの区民の方が実際の取組等イメージしやすいように、なるべく写真を多くした。 初めての人でも計画の概要がわかるように、概要版を作成した。地区に説明に行く際には、計画の概要とその地区の地区別計画を説明できるように、9地区の地区別計画(A4両面に印刷したもの)を概要版に挟み込んで活用する。 	<p>地区別計画共通テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 身近な地域の支えあいを進めよう 地域ぐるみの健康づくりを進めよう <p>区役所・区社協・地域ケアプラザの取組</p> <p><地域の暮らしを支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 自分らしく暮らせるための支援をします 子育てしやすい地域をつくります 健康づくりを進めます <p><地域の活動を支援></p> <ol style="list-style-type: none"> 地区別計画の推進体制を支援します 地域の活動が活発になるよう支援します 	<p>区・区社協・CPの取組では、</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康への関心を高める 地域ぐるみの健康づくりを支援 食育の推進

区	第3期計画の特徴(アピールしたい点)	推進の柱	健康づくりに関する具体的な取組内容
金沢	併行して改定作業を進めている都市計画マスタープラン金沢区プランと基本目標及び視点を共有しながら、まちの将来像を見据えた推進目標を設定。	1 身近な知りあいを増やし安心の輪を拡大 2 みんなで健康づくりに取り組みいきいきとしたまちへ 3 『得意』や『経験』をいかしてわたしたちもあなたも地域も元気に	情報発信・啓発、活動機会等の促進、健康づくり活動を支える環境整備
港北	新たな視点 1 健康寿命を延ばす取り組み 2 地域包括ケアシステムを見据えた仕組みづくり 3 災害時の対応と見守りなどの仕組みづくり 推進のための取組として明確にしたこと 1 区役所や区社協、地域ケアプラザの取組 2 地区計画推進における課題解決のための仕組みづくり	1 「ひろがる」 理解と参加のひろがりによる活発な地域づくり 2 「つながる」 人のつながりで進める安心のまちづくり 3 「とどく」 支援がとどくしくみづくり ひろがるー1 幅広い住民の地域活動への参加促進 ひろがるー2 地域活動の活性化と拡がり促進 ひろがるー3 未来を担う次世代育成 つながるー1 人と人とのつながりづくり つながるー2 年齢や障害の有無に関わらず、誰もが参加できる場づくり つながるー3 健康寿命を延ばす取組の推進 とどくー1 支援が必要な人を発見し支援につなげる仕組みづくり とどくー2 身近な場所で相談・支援が受けられる環境整備 とどくー3 災害に備えた要援護者支援の仕組みづくり	・健康づくりへの関心、意欲を高める仕掛けづくりを行います。 ・外出や他者との交流などの「つながり」が健康を保つことへの啓発を行います。 ・保健活動推進員や食生活等改善推進員が、他の委嘱委員や活動団体と連携して取り組む自主的な健康づくり活動を支援します。 ・身近な地域で介護予防の取組ができる場や機会を増やします。
緑	地区別計画の取組への支援を強化するとともに、素晴らしい取組が他地区に広がるきっかけづくりや情報共有を進めることを目指し、区域計画に「地区支援目標」を設定しました。 さらに、区域全体の共通課題や区域で取り組むべき課題・取組についてまとめ直すとともに、計画の方向性や進捗状況の把握・進行管理をより明確にするために、「認知症」や障がい児・者」など、6つの「重点テーマ」とそれぞれのテーマに応じた目標を設定しました。	基本目標の5つのキーワード 1 つながり 2 人材・担い手 3 機会・場 4 情報 5 安全・安心・健康 6つの重点テーマ 1 日常的な見守り体制づくり 2 認知症 3 障がい児・障がい者 4 子ども・子育て 5 災害時に支援が必要な方 6 健康づくり	【目標1 ライフステージに応じた健康づくりに関する取組をすすめます】 ・保健活動推進員・食生活等改善推進員と協働で地域の健康づくり活動の推進 ・子どもから高齢者まで誰もが健康で快適な生活が送れるよう健康づくり事業の推進・拡充 ・介護予防事業・認知症予防事業等の健康づくり事業の推進・拡充 【目標2 健康で充実した生活を送れるよう、活躍できる機会・場づくりを支援します】 ・元気づくりステーション等の介護予防事業の推進・拡充 ・介護予防支援者等の人材育成 ・関係機関・団体等が連携して情報を共有し、円滑なコーディネートを実施
青葉	・区民意見からのニーズ把握 ・「区民意識調査」、15の連合自治会町内会エリアで実施した「地区別意見交換会」、障がい当事者団体・PTA・中学生へ「グループインタビュー」を実施。民生委員児童委員・PTA・子育て支援者等へ計画の内容に対する「アンケート」を実施。 ・第3期計画の目指すべき姿を「推進の柱」として策定 2期計画の振り返りや区民の意見から見えてきた区域全体に共通するテーマとして、「地域のつながりづくり」「次世代への継承」「誰もが安心して健やかに暮らせるまち」「多様な地域性をいかす」というニーズの整理を行い、2つの「推進の柱」を策定。 ・「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」 地域の皆さん一人ひとりが身近な地域で取り組めることをわかりやすく計画に位置付けるために、「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」を、区民の意見をもとに作成。	推進の柱 ・次世代に継承する「地域のつながり」のあるまち ・住み慣れた地域で誰もが安心して健やかに暮らせるまち 推進の視点 1 地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成・活用 2 活動の土台となる情報・機会・ネットワークの充実 3 高齢者・障がい者等の暮らしの支援 4 子ども・青少年の健全育成 5 健康長寿のまちづくりの推進 6 災害時でも安心のまちづくりの推進	【推進の柱2 住み慣れた地域で、誰もが安心して健やかに暮らせるまち】 ・地域の中で健康づくりができる機会を増やし、健康づくりを通して、地域の交流を深める ・身近な健康づくりとして、ウォーキングを普及啓発する ・子どもから高齢者まで、誰もがライフステージにあった健康づくりができるようサポート ・生活習慣病の早期発見・重症化予防のため、がん検診、特定健診の普及を進める
都筑	・区計画の取組内容を分野別に整理するとともに、「健康づくり」についても一分野の取り扱いとした。あわせて、取組の見える化を図るため、取組む内容について具体的な記載により盛り込むことにした。また、区・区社協・ケアプラザの取組を一体的に記載することで、3者が一体で取り組む計画であることが伝わるようにした。 ・計画の推進にあたり、分野別に意見交換や議論を行う場を設けることとした。 ・地区別計画について、地域の方の自主性を引き出し作成した。また、地区別冊子には地域の取組を落とし込んだ地図を盛り込むなど、地域の方に手に取ってもらえるよう工夫した。また、地域懇談会等の場で区計画の方向性を示すことにより、多くの地区で健康づくりが目標の柱になるなど、区計画との連動性も確保できた。 ・3期計画推進のシンボルとするため、専門のキャラクター(都筑区のキャラクターの「つづき あい」ちゃんの3期計画応援バージョン)を作成。	基本理念 人と人との「であい ささえあい わかちあい」 目指す姿 「であいが広まり、お互いにささえあい、地域がもつ力をわかちあえる地域づくり」 区計画における取組 1 子ども・青少年分野の取組 2 高齢者分野の取組 3 障害者分野の取組 4 健康づくり分野の取組 5 地域福祉保健計画を推進する基盤づくり	・あらゆる世代における切れ目のない健康づくりの取組を支援する ・身近な地域で健康づくりの取組が進めていけるよう、区民の健康づくりサポーターの支援に取り組む ・感染症・食中毒などの発生を予防するとともに、発生する被害を最小限にとどめるために必要な事業に取り組む
戸塚	・地区別計画の策定・推進エリアを地域ケアプラザエリア単位から連合・地区社協エリア単位に変更。 ・4つの基本目標に加えて、目標を支える共通取組を新たに設定。 ・戸塚区の現状や将来推計等を、表やグラフを用いてわかりやすく解説。 ・住民に加え、関係機関・施設・企業等とのネットワークづくりも重視。	基本目標 1 支えあいと助けあいのあるまち 2 みんながふれあう場のあるまち 3 安心・安全、人にやさしいまち 4 いつまでも元気で健やかに暮らせるまち	基本目標4 いつまでも元気で健やかに暮らせるまち 4-1気軽に参加できる身近な健康づくりの場・機会の拡大 4-2 「健康」をキーワードにした連携 4-3 介護予防の大切さを伝える場・機会の拡大 4-4 シニアパワーを発揮できる場・機会の拡大 4-5 在宅療養を支援する医療・保健・福祉の連携
栄	自治会町内会を中心とする活動も計画の一環として位置づけ、地域の福祉保健課題を区民総参加によって解決することを目指した。	7つのテーマ 1 栄区らしい共助社会づくり 2 いつまでも安心して暮らせる地域社会づくり 3 地域が支える出産・子育てから青年期までの切れ目のない支援 4 区民総ぐるみの健康ライフスタイル 5 地域防災における福祉的視点の充実強化 6 障害者が安心して暮らせる地域づくり 7 地域と連携した生活困窮者支援	・みんなが連携し健康づくりに取り組む地域社会を目指す ・ウォーキングなど運動が活発な地域社会を目指す ・地産地消など食育に取り組む地域社会を目指す
泉	・第2期計画では基本理念を定めたのみだったが、第3期計画の策定の中で、各地区での意見交換や策定委員会での意見を通じて、基本理念が目指すまちの姿を8つのイメージとして明らかにすることで、より具体化。 ・第2期計画の区計画では土台となる「交流」「担い手」「情報」と、「高齢」「障がい」などの分野別による2層の取組としていたが、第3期計画では地区別計画・区計画に共通するものとして、分野を横断した3つの「推進の柱」に整理。	1 健やかに過ごせるまち 2 人と人、活動と活動のつながりがあるまち 3 地域活動への参加がすすむまち	健康寿命をのばすための健康づくり など
瀬谷	・基本目標を3つに整理。 ・全域計画と地区別計画は基本理念・基本目標を共有。 ・計画で大切にしているテーマを区民へわかりやすく伝えるため、副題(サブタイトル)を「暮らしやすいまちづくりの計画」と定めた。 ・地域向けに「地区別計画策定・推進にあたって」を作成したことで、各地区が自ら主体的に第3期地区別計画を策定。	基本目標 1 隣近所で見守り・支え合う地域づくり 2 健康・長寿をめざす地域づくり 3 誰もが活動に参加する地域づくり	瀬谷区の計画は、計画上は計画の理念や方向性を示すまでとし、具体的な事業は関係機関の毎年度の事業計画として進めていくように構成している。健康関係の方策についても具体的な内容の記載はしていない。

第3期横浜市地域福祉保健計画の推進に向けて

第3期横浜市地域福祉保健計画に基づき、市と市社協の役割分担を明確化した上で、相互に補完し、連携・役割分担を行いながら、取組を推進しています。

2016/3/9現在

	横浜市の取組	横浜市社会福祉協議会の取組
推進の柱1	<p>(1)第3期区計画の策定支援(柱1-1-1) 区計画策定に向けた情報提供や予算配付等の支援 ＜平成27年度＞ 第3期区計画（地区別計画含む）の策定作業に対して、全区統一的な取組の方向性の提示、参考となる考え方や方法の情報提供、区同士による情報共有の機会づくり、策定に係る予算配付等による支援を行いました。</p> <p>＜平成28年度＞ 引き続き、第3期区計画推進に向けて、区への情報提供、区同士による情報共有の機会づくり、研修を行います。</p> <p>区地域福祉保健計画事務局向け研修の実施（☆新規） ＜平成27年度＞ 共同事務局である区役所、区社会福祉協議会が、各区の地域福祉保健計画策定推進の状況や地区別支援チームの体制状況等の課題分析をふまえ、中長期的な視点での推進の方向性や取組内容の検討ができるようになることを目的とし、「区地域福祉保健計画推進企画マネジメント研修」を実施しました。</p> <p>＜平成28年度＞ 引き続き、区事務局向けの研修を実施し、第3期区計画推進に向けた区支援を行います。</p>	<p>(1)第3期区計画の策定支援(柱1-1-1) 市域での情報共有、研修実施</p> <p>＜平成27年度＞ 26年度に引き続き、各区計画の策定に向け、各区への情報提供や情報提供の機会づくり、区社協担当者対象の研修を行いました。 ◆区社協職員対象計画理解研修 1回 ◆地域支援担当者会議の実施 2回</p> <p>＜平成28年度＞ 区社協職員が区役所と協働し、区域計画の推進や住民が主体となった地区別計画の推進が行えるよう、計画担当者会議で進捗状況等について共有を行います。また、各区からの計画策定に関する相談に対して、市域で情報を集約、提供し、支援を行います。</p>
推進の柱2	<p>(1)各分野の地域の生活課題を把握・調整・解決する仕組みと地域福祉保健の推進の連動を見据えた効果的で効率的な仕組みづくり(柱2-2-2) 庁内検討プロジェクトの開催（☆新規） ＜平成27年度＞ 関係局課との庁内検討プロジェクトを実施し、各分野（高齢・障害・子ども・生活困窮等）で行われているそれぞれのネットワーク会議であげられた地域課題を、区域、市域につなげていく仕組みづくりについて検討しました。</p> <p>＜平成28年度＞ 庁内検討プロジェクトにおいて各分野のネットワーク会議実施状況及び地域における課題の共有・調整を行うことを位置づけ、実施していきます。 共有・調整した事項は、市地域福祉保健計画策定・推進委員会に報告するとともに、区へフィードバックし、地域福祉保健計画推進の取組に連動させていきます。</p> <p>(2)地域のつながりを健康づくりに生かす取組の充実(柱2-2-3) 健康キャラバン事業「つながりde健康づくり」 普及啓発用リーフレット作成、関係局区職員、関係機関向け研修の実施</p> <p>＜平成27年度＞ 普及啓発用リーフレットの区への配布、市民活動支援に関わる局区（市民局・地域力推進担当職員）や関係機関（地域ケアプラザ、社協、区民活動支援センター等）への研修、区主催での地域人材を対象とした研修への支援等、様々な場面を活用して普及啓発に取り組み体制づくりを行いました。 ◆リーフレット配布数（30,000部） ◆健康福祉局主催研修 3回（71名） ◆区主催研修 10回（9区10課、996名）</p> <p>＜平成28年度＞ 引き続き「つながりde健康づくり」リーフレットの区への配布（20,000部予定）区主催研修への講師派遣等を行い、区域での普及啓発を推進します。</p>	<p>(1)身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業(柱2-2-1)</p> <p>区域における個別支援から地域支援への展開 ＜平成27年度＞ 26年度に引き続き、各区社協が住民、地域ケアプラザと協働して個別ニーズの把握、解決から地域課題の把握、解決へ向けた取組が行えるよう支援を行いました。 26年度に作成した報告書をもとに支援の方法や考え方を伝える出前勉強会を各区社協、地区社協、民生児童委員協議会、地域ケアプラザ等を対象に開催した他、住民とともに個別課題の解決に取り組む手法の一つである住民支え合いマップの実践に向けた研修会、実践事例相談会等を実施しました。</p> <p>◆身近事業出前勉強会 24回 ◆住民支え合いマップ研修 3回 ◆事例相談会 3回</p> <p>＜平成28年度＞ 引き続き各区社協が住民、地域ケアプラザと協働して個別ニーズの把握、解決から地域課題の把握、解決へ向けた取組が行えるよう支援します。 また、各区社協と地域ケアプラザによる活動実践事例をまとめ共有を図ります。</p>
	<p>(3)地域福祉保健推進のためのコーディネート機能の向上(柱2-2-5、柱2-2-6) 地域ケアプラザ職員の役割と育成の考え方(仮)の検討 ＜平成27年度＞ 地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーターの育成について、現状・課題の把握を行いました。これらをふまえ、地域活動交流コーディネーター等、地域ケアプラザ職員の役割・育成のあり方を検討するための準備を行いました。</p> <p>＜平成28年度＞ 地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーター等、地域ケアプラザ全体の役割及び人材育成を効果的に進めるため、区・地域ケアプラザ・社会福祉協議会をメンバーとした検討会を設け、育成のあり方を検討します。</p>	<p>(2)権利擁護の取組(権利擁護事業、市民後見人養成・活動支援事業、法人後見事業)(柱2-3) 市民後見人養成課程の実施、市民後見人支援 ＜平成27年度＞ 地域における権利擁護の担い手の育成を進め、事業を通じて把握した個別ニーズを地域福祉活動につなげる取組を行いました。 市民後見人養成は、第2期（平成26～27年度）養成課程修了者が横浜市市民後見人バンクに登録しました。バンク登録者の中から後見人等として家裁から選任され、活動を開始した方の支援を行いました。今年度はバンク登録者支援が全市に広がったため、市内を7つのブロックに分け、成年後見サポートネット等を通じて知識や意識の向上に努めました。また、市民後見への理解促進のため「市民後見シンポジウム」を開催し、250名を超える参加がありました。 ◆第2期市民後見人養成課程修了者のバンク登録者数37名 ◆横浜市市民後見人バンク登録者数 71名 ◆市民後見人受任者数 新規3名 累計11名</p> <p>市民後見人支援、啓発、各区権利擁護事業の推進 ＜平成28年度＞ 28年6月から第3期市民後見人養成課程を市内7区対象に実施します。受任に向けた調整やバンク登録者及び市民後見人の活動支援を一層充実します。各区権利擁護事業は、権利擁護ニーズの掘り起こしを引き続き進め、サービスが必要な方へ制度をつなげます。また、地域における権利擁護の担い手の育成を進め、市民参加のもと権利擁護の体制作りを総合的に推進します。</p>

	横浜市の取組	横浜市社会福祉協議会の取組
推進の柱3	<p>(1)対象層を明確にした市民参加の働きかけに向けた検討(柱3-1、柱3-4) 効果的な普及啓発の取組の検討 ＜平成27年度＞ 市社協と連携し、市域でどのような対象者に対し、地域福祉保健推進に関する効果的な普及啓発の実施が出来るかについて検討を行いました。対象者として、50代後半を対象層として実施していくこととしました。また、企業団体向けに地域活動についてのPRを進めるために関係機関との調整を行いました。</p> <p>＜平成28年度＞ 市社協と連携し、50代後半を対象に地域活動への参加を働きかけていくための、市域における効果的な普及啓発の取組について検討していきます。</p>	<p>(1)対象層を明確にした市民参加の働きかけに向けた検討(柱3-1、柱3-4) 企業向け研修プログラム(ワークショップ)の作成 ＜平成27年度＞ 今後、地域活動への参加が期待できる40代～50代層にアプローチを行うことを目的として、企業内研修(定年退職後の生活設計に向けた社員研修)で活用できるプログラム(ワークショップ)を作成し、実施しました。また作成にあたっては企業や中間支援組織との意見交換を行い、意見を反映させました。</p> <p>＜平成28年度＞ 平成27年度に作成したワークショップが活用されるよう、市と連携しながら企業や企業間ネットワーク等への積極的な提案をおこないます。</p> <p>(2)幅広い福祉教育(啓発)の実施(柱3-1-4、柱3-1-5、柱3-2-1) プログラム集の作成および活用 ＜平成27年度＞ 広く地域の住民、機関・団体、企業等を対象に福祉啓発を実施できるよう、以下のようなプログラム提案をおこないました。 ・子どもと地域の人材とのつながりを意識したプログラムの実践 ・学校に向けた事前事後学習の実践に向けた提案 ・区社協と協働した企業に向けた福祉啓発プログラムの提案</p> <p>＜平成28年度＞ 平成27年度に作成した各種プログラムについて、区社協担当者及び学校教員に向けて積極的に発信し、学校や地域、企業に対する福祉教育(啓発)の取組に活用していくよう働きかけをおこないます。</p>
	<p>(2)高齢者の意欲と能力(シニアパワー)が発揮できる場と出番づくり(柱3-3-2) 「地域におけるシニアパワー発揮推進事業」 モデル地区での取組実施、取組調整 ＜平成27年度＞ 金沢区で小学校と連携した高齢者の活躍の機会づくり(校庭の花壇を活用した植栽活動、児童との交流)に取り組み、取組が高齢者の心身の健康等に与えた効果や児童や地域への波及効果を検証しています。 また、2地区目での取組開始に向け、地域や区役所、関係機関等と効果的な取組内容についての検討・調整を行いました。 ◆モデル地区：金沢区(27～28年度) 泉区(予定)(28～29年度)</p> <p>＜平成28年度＞ モデル地区2地区での取組の推進と、高齢者の心身の健康等に与えた効果を引き続き検証し、効果的な事業を展開していく手法について検討していきます。</p>	<p>(3)高齢者の意欲と能力(シニアパワー)が発揮できる場と出番づくり(柱3-3-2) さまざまな媒体・機会を利用したボランティア活動等の情報発信 ＜平成27年度＞ いきいきシニア就労支援スポット事業等において連携を進め、モデル区での中間的就労やボランティア活動の情報発信に取り組みました。</p> <p>＜平成28年度＞ ホームページや広報紙、メール配信サービスを活用し、高齢者等を対象とした情報発信をおこないます。</p>
	<p>(3)地域福祉保健の取組を広げるための地域に関わる様々な公的機関の連携促進(柱3-5-1) 地域施設間の連携促進を目的とした情報共有会議等の実施 ＜平成27年度＞ 地域の課題解決や魅力ある地域づくりを図るために、各区の市民活動支援センター、区社協、地域ケアプラザ、地区センター等、地域活動の支援に関わる施設・組織において、施設間で情報共有を行う会議の開催等、施設間が連携した取組を進めました。</p> <p>＜平成28年度＞ 引き続き、地域施設間で情報共有を行う会議の開催等、施設間が連携した取組を進めます。</p>	<p>(4)企業の地域貢献活動の充実にに向けた支援(柱3-4-3、柱3-4-4) 企業の社会貢献支援、マッチングシステムの周知 ＜平成27年度＞ 平成26年度に運用開始したマッチングサイト「ジョインとよこはま」が活用され、これまでに前年度同規模の相談が寄せられました。 また、企業から提案された貢献活動を一覧にし、区社協や地域ケアプラザ等を対象に定期的に情報発信したことにより、新たな実践に繋がっています。</p> <p>＜平成28年度＞ 研修会や相談会などの機会を通じ、企業や中間支援組織に向けて、地域貢献活動事例を発信し、実践企業の広がりや内容の充実に図っていきます。</p> <p>(5)よこはま地域福祉フォーラムの開催(柱3-4-1)(☆新規) フォーラムの開催、事例集の作成 ＜平成27年度＞ 第1回よこはま地域福祉フォーラムを12月11日(金)に開催しました。 テーマを「おたがいさまの縁づくり」とした今回は、普段の暮らしのなかでは見えにくい身近な地域の支えあいの活動に焦点をあて、高齢者の孤立死や子どもの貧困など複数の要因をもつ新たな地域課題に対して、“新しいつながり、新しい縁”のかたちを考えるとともに、横浜市内で進められている様々な支えあい活動の先進事例の発表を行いました。【参加者：約1,350名】</p> <p>＜平成28年度＞ 引き続き、第2回よこはま地域福祉フォーラムを実施し、横浜市内で行われているさまざまな地域づくり実践の発表等を行うことで、支えあい活動の活性化をはかります。</p>

横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会の取組経過(平成26～27年度)

今期(26～27年度)の横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会において、検討を進めてきた経過について報告します。

	市計画策定・推進委員会	計画検討会
平成26年度	<p>◆第1回(H26.7.17) 第3期市計画評価について 第3期市計画の評価方法について確定 今後の委員会の取組 第3期市計画推進のために必要な検討課題等について意見交換</p> <p>◆第2回(H27.3.27) 地域福祉保健の推進に係る関係団体等の事業・取組について 委員の所属団体等において、27年度に実施予定の取組について共有し、今後の計画推進に向け取り組むべきことについて意見交換 ・ダブルケアの周知 ・高齢者消費者被害防止キャンペーン活動</p>	<p>◆計画検討会(H26.11.18) 区計画策定支援に向けた検討 委員から提出いただいた各所属団体等における取組事例を基に、区計画策定の参考となる取組、要素を資料化し区に情報提供(「区地域福祉保健計画推進のための地域活動参考事例集」としてまとめ、区へ送付)</p>
平成27年度	<p>◆第1回(H27.7.21) 幅広い市民に向けた地域福祉保健計画のPRについて(第1回) これまでの地域福祉保健計画のPRの取組を踏まえ、市域・区域での役割分担の考え方を整理し、周知がより必要なターゲット層を明確にしたPRのあり方について意見交換</p> <p>◆第2回(H28.3.9) 第3期区地域福祉保健計画策定状況及び今後の区計画支援について 第3期区計画における主要テーマ等を共有し、今後の区計画推進支援について意見交換 第3期横浜市地域福祉保健計画推進の取組 第3期市計画の取組推進に向けた意見交換</p>	<p>◆計画検討会(H27.11.16) 幅広い市民に向けた地域福祉保健計画のPRについて(第2回) 第1回検討結果を踏まえ、50代後半層へのアプローチを企業等との連携・協働により効果的に進めて行くための、具体的なアプローチ方法、新たな層が活動を進める際の地域の受入れ体制等について意見交換</p>

委員コメント

(横浜市地域福祉保健計画策定・推進委員会を通して感じたこと)

資料3-2

1	<p>第3期では、次の3点に力を入れていく必要があると痛感しています。</p> <p>① 福祉概念のより一層の拡大 (取り扱う領域を広げる必要がある。六ッ川連合自治会のやっている野外サロンや朝市サロン、本郷中央地区の民生委員有志が取り組んでいる子ども支援農園など)</p> <p>② 子どもや青少年、働き盛りの方、リタイア層等新しい担い手づくり (主体性が発揮できる環境づくりや気軽にできる範囲で負担感なく楽しくできるなどをすすめることで、実現できているところもある。旭区のジュニアボランティア、玉輿町内会の青少年部、いずみ野サポーターズ、瀬谷区のおやじの広場など)</p> <p>③ 地域と施設・事業者・企業・NPO等との連携 (地域にある施設・事業者・企業・NPO等とつながる、地域福祉保健活動での協働、お金だけでなく、ボランティア・会議室の貸借・物品の提供等多彩な企業の社会貢献活動との関わり強化)</p>
2	<p>子どもの貧困が話題となり、子ども食堂もブームのように全国に広がっています。乳幼児期からの切れ目のない「家庭支援」、特に学齢期～若者の支援に力を入れるべく、委員会にて、青少年の支援について学ぶ機会があってもいいのでは…と思っています。</p> <p>子ども・障がい・高齢分野を超えて、地域のキーパーソンを育てることがこれからの社会に必要なと感じています。地域包括ケアを含め、新しいアプローチが必要です。</p>
3	<p>どれだけ計画されているものが推進されているのかその辺が少し曖昧でしたが、簡単に数値で追うことができるものではないので、少なくとも委員会に参加した人に意識改革はあったのではないのでしょうか。</p> <p>私も、シニアの方を意識して学校と結びつけたい…と思っていただけでも今年度は、老人クラブに学校の部屋を使ってもらったり、イベントにより多くのシニアの方に参加してもらうことができました。もっと意識レベルで広く一般市民に「2025問題」を広めていかないといけない気がします。</p>
4	<p>幅広い市民に向けた地域福祉保健計画のPRについて 企業向けに各イベント(区域・市域)を含めたボランティア活動のPRをする。初めての方は単発のボランティア活動を何回か繰り返すことにより、継続の活動につながるのではと思います。</p> <p>各企業も労組あてに出した方が効果があると思います。</p>
5	<p>横浜の福祉について、さまざまな立場の方々の意見を組込んで計画を作り上げるプロセスを目の当たりにして、責任の重みを感じました。</p> <p>その席で市民の活動を代弁できたかという不十分だったかと反省するところです。</p> <p>市民としては、福祉という認識より、穏やかでつつがない日常生活という望むという感覚です。日常生活とは幅広く、幸福感に大きく影響します。制度の充実を求めるだけでなく、同時に今ある制度を上手に活用しながらも、そのうえで受益者でもある市民はどのような貢献ができるのかを地域の人たちと話し合っていきたいと思います。</p> <p>すでに、地区社協やNPOはお互いの垣根を越えて、住んでいてよかったと思える町づくりに知恵や工夫を共有し合っています。</p> <p>さらに、包括支援センターレベルでの地域ケア会議が実効性を発揮できるように進んでいくことを念じています。</p>
6	<p>地域の誰もが自分たちの生活の中で地域福祉計画を身近に感じる事が出来る工夫が出来たらいいなと感じました。そういった意味での周知広報が大切だと思います。</p>
7	<p>この委員会に参加させていただいたことにより、意識的に”身近な地域のつながり・や支え合い”等地域活動に多く参加するようになり、ただ受け身で生活するのではなく、自分も地域を活性化させる一人であるという意識が芽生えてきました。これらのテーマは、市民がより心・体・財政面で豊かに生きるために欠かせないことであると思います。そして、意識的に取り組まなければ以外に見落とされやすいことでもあると思いました。</p>

平成28年度 第3期横浜市地域福祉保健計画 関連事業取組予定スケジュール

主担当		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
策定・推進委員会、計画検討会		市 市社協			委員会①				計画検討会				委員会②
市・市社協関係会議		市 市社協	市と市社協の定例会 ◆庁内検討PJ(市)	◇経営改善推進本部(市社協)				◇経営改善推進本部(市社協)					
推進の柱1		市 市社協	市・区計画策定・推進、各種研修実施 / 市・区計画策定・推進状況等の情報提供 / 管理職会、担当者会議等での情報交換実施										
「地域住民が主役となり地域課題に取り組むための基盤をつくる」における取組		市 市社協	★区計画推進支援 ◆区計画担当者新任研修(市)	◆区担当者会議①(市) ◆区責任職研修(市)	◆◇区地域福祉保健計画推進企画マネジメント研修(市・市社協) ◇区社協地域支援担当者会議①(市社協)	◆地域支援研修①(市)(福祉保健分野別)	◆研究発表会(市)(事例報告)		◆地域支援研修②(市)(福祉保健分野別)				◆区担当者会議②(市)
①各区・地区別計画策定・推進		18区 共通											◇区社協地域支援担当者会議②(市社協)
②重点的支援が必要な地区への支援		市	地域の見守りネットワーク構築支援事業等の推進										
推進の柱2		市 市社協	区主催研修への研修講師派遣/市域・区域での様々な事業を活用した普及啓発の実施										
「支援を必要とする人が的確に支援へつながる仕組みをつくる」における取組		市 市社協	各区へのリーフレット配布			局主催研修の実施							
①健康キャラバン事業		市											
②身近な地域のつながり・支え合い活動推進事業(柱2-2-1)		市社協		区社協担当者会議									区社協担当者会議
③地域の生活課題を把握・調整・解決する仕組みづくり(柱2-2-2)		市	各区社協による実践・事例検討							各分野別ネットワーク取組状況把握		庁内検討プロジェクト実施	
④地域ケアプラザの機能と人材を生かすための環境づくり(柱2-2-5)		市 市社協											「地域ケアプラザ地域交流コーディネーターの役割と人材育成の考え方」策定のための検討会
⑤地域福祉保健人材の育成(柱2-2-6)		市 市社協											人材育成体制の確定 次年度に向けた研修企画
⑥権利擁護の取組(権利擁護、市民後見人養成・活動支援事業、法人後見)(柱2-3)		市 市社協			第3期市民後見人養成課程(基礎編)								第3期市民後見人養成課程(実務編)
		市 市社協	市民後見人バンク登録者(1期・2期養成課程修了者)及び市民後見人への活動支援(相談支援、成年後見サポートネット全体会・分科会、合同研修会、定期面談、受任者連絡会、自主勉強会運営支援等)・市民後見人バンク登録者(1・2期養成課程修了者)受任調整										
推進の柱3		市 市社協	地域におけるシニアパワー発揮推進事業/2地区における取組支援(効果的な取組内容検討、介入調査、効果測定、効果検証等)										
「幅広い市民参加から地域福祉保健の取組が広がる仕掛けをつくる」における取組		市 市社協	各区取組事例の集約検証・見直し			教育委員会や市域当事者団体との調整を随時実施							
①幅広い福祉教育(啓発)の実施(柱3-1-4、3-1-5、3-2-1)		市 市社協				先生のための福祉講座		活用による実践					
②高齢者の意欲と能力が発揮できる場と出番づくり(地域におけるシニアパワー発揮推進事業等)(柱3-3-2)		市 市社協	啓発・養成講座の情報収集と発信(本会HP、メール配信サービス等の活用) 企業内(定年退職者等社員向け)研修用ワークのPR			シニア大学でのボランティア講座実施							
③よこはま地域福祉フォーラムの開催(柱3-4-1)		市社協	市社協・区社協共同プロジェクト開催			分科会発表事例募集	分科会発表事例決定	◇チラシ作成・周知開始		◇11/末よこはま地域福祉フォーラム開催		事例集(報告書)作成	事例集(報告書)発行
④企業・学校との連携事業(企業の地域貢献活動の充実にに向けた支援等)(柱3-4-3、3-4-4、3-5-1)		市 市社協	◇企業と地域をつなぐマッチングサイトの活用(市社協) ◇コーディネート実践(市社協)			関係局・機関との調整 教育委員会/ 経済局(コミュニティビジネス等手法活用の仕組みづくり)/ 市民局/ 政策局(共創フロントを活用したマッチングの仕組みづくり)							企業や中間支援組織に向けた地域貢献活動実践事例の提供(研修会・相談会等を活用した事例報告)
⑤地域施設間の連携(柱3-5-1)		市	市内8区(南、神奈川、青葉、都筑、戸塚、西、金沢、港北区)を中心に取組実施			各地域施設が持つ機能を有効に活用するための施設間が連携した取組の推進							
その他		市 市社協	対象層(40~50代)に向けた効果的な普及啓発の取組の実施・検討(退職者向け研修等での普及啓発・企業等に対する普及啓発等)										
		市 市社協	普及啓発動画の活用										